

中川・綾瀬川流域治水プロジェクト【位置図】

～都市化の進む流域において総合的な治水対策を一層推進し、浸水被害を軽減～

R3.3策定
R5.3更新

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、事前防災対策を進める必要がある。利根川水系中川・綾瀬川流域では、昭和30年代以降の急激な市街化の進展に対し、従前より有していた保水・遊水機能の維持・増大を図るため、流域が一体となった総合的な治水対策の取り組みや流域外への排水機能の強化等を進めてきたが、以下の取り組みを一層推進していくことで、国管理区間においては、甚大な浸水被害が発生した戦後最大の昭和33年洪水と同規模の洪水に対して堤防からの越水を防止し、流域における浸水被害の軽減を図る。

● 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・洪水氾濫対策
(堤防整備、河道掘削、高潮対策、排水機場の増強、調節池整備 等)
- ・内水氾濫対策
(排水施設の整備、施設の耐水化、電気設備の嵩上げ 等)
- ・流域の雨水貯留機能の向上
(開発に伴う雨水流出抑制対策の指導・促進、下水道貯留浸透施設、校庭貯留、水田貯留 等)

● 被害対象を減少させるための対策

- ・水災害ハザードエリアにおける土地利用や住まい方の工夫
(リスクが高い区域における開発抑制、立地適正化 等)
- ・まちづくりでの活用を視野にした水災害リスク情報の充実
(多段階な浸水リスク情報の充実 等)

● 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・土地の水災害リスク情報の充実
(ハザードマップの整備 等)
- ・避難体制等の強化
(マイ・タイムラインの策定・支援、まるごとまちごとハザードマップの整備促進、避難訓練の実施 等)
- ・関係者と連携した早期復旧・復興の体制強化
(自治体職員対象の排水ポンプ車運転講習会の実施 等)



開発に伴う流出抑制対策(松伏調整池)



校庭貯留(羽生市)



リスクが高い区域における開発抑制、立地適正化



多段階な浸水リスク情報の充実



避難訓練の実施



排水ポンプ車
運転講習会の実施



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
※氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策には危機管理対策等は含まれていない。

中川・綾瀬川流域治水プロジェクト【位置図】

～都市化の進む流域において総合的な治水対策を一層推進し、浸水被害を軽減～



●グリーンインフラの取り組み 『都市部に残された貴重な水辺空間と水辺環境の活用・保全・創出』 R5.3更新

- 中川は、明瞭な自然堤防帯を有し、高水敷と水際のオープンスペースや自然環境は都市部に残された貴重な水辺空間となっている。綾瀬川は、草加松原の松並木など歴史的景観を有しながら、堤防等の整備が進められてきた都市河川でもあり地域の人々の憩いの場となっている。中川・綾瀬川ともに、流域の急激な都市化により進んだ水質汚濁は、近年は改善されている。
- 中川・綾瀬川流域において、流域治水による浸水被害の軽減と併せて、安全かつ快適に利用できる水辺空間の整備や、ムサシトミヨ、ヒヌマイトトンボ、ノウルシ等貴重種の生息・生育・繁殖環境の保全・創出など、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。

● 自然環境の保全・復元などの自然再生

- ・ムサシトミヨ、ヒヌマイトトンボ、ノウルシ等貴重種の生息・生育・繁殖環境の保全・創出
- ・サギ類コロニーの保全
- ・市街地に残る樹林地の公有地化のほか、民有地の緑地保全を推進

● 健全なる水循環系の確保

- ・流域関係者との連携・協働(綾瀬川・中川水質改善流域協議会)
- ・水質改善を目的とした浚渫
- ・雨水貯留タンクの設置等による、水資源の有効利用と地下水の涵養の促進

● 自然環境が有する多様な機能活用の取組み

- ・小中学校などにおける河川環境学習
- ・市民・NPO団体・企業と協働した河川等水辺の美化活動

● 治水対策における多自然川づくり

- ・生物の多様な生息・生育・繁殖環境の創出
- ・緑化によるうるおいのある水辺空間の創出
- ・豊かな水と緑に親しめる空間の創出

● 魅力ある水辺空間・賑わい創出

- ・かわまちづくり(草加市) ・水辺の乗校整備
- ・水辺deベンチャー計画
- ・防災公園の整備に伴う多目的利用



中川やしお水辺の乗校(八潮市)



綾瀬川左岸大曽根地区ピオトープでの河川環境学習(昆虫調査)



市民による清掃活動(中川)



中川サギ類コロニーの観察イベント



元荒川貴重種(ムサシトミヨ)



中川貴重種(ヒヌマイトトンボ)

- 【全域に係る取組】
- ・生物の多様な生息・生育・繁殖環境の保全・創出
 - ・地域のニーズを踏まえ、潤いと安らぎのある河川空間の保全



中川・綾瀬川流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～都市化の進む流域において総合的な治水対策を一層推進し、浸水被害を軽減～

R3.3策定
R5.3更新

●中川・綾瀬川では、上下流、本支川の流域全体を俯瞰し、国、都県、区市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】中川下流部や新方川における堤防整備や河道掘削、および大場川下流排水機場や八潮排水機場の増強を主に実施する。また、内水氾濫対策（排水施設の整備等）や、流出抑制対策（開発に伴う流出抑制対策の指導・促進、雨水貯留施設の整備等）、被害対象を減少させるための対策（土地利用や住まい方の工夫等）をより一層推進するとともに、被害軽減のための水災害リスク情報の充実や避難体制の強化等を実施する。

【中長期】本川、支川における堤防整備、河道掘削とあわせ、調節池や放水路の整備等を実施する。また、内水氾濫対策、流出抑制対策、被害対象を減少させるための対策、被害の軽減のための対策等を引き続き実施し、流域全体の安全度向上を図る。

区分	対策内容	実施主体	工程	
			短期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	堤防整備、河道掘削、高潮対策等	国、埼玉県、東京都		中川下流部(国管理区間) 無堤部の堤防整備完了
	排水機場の増強	国、埼玉県	大場川下流排水機場 完了	八潮排水機場 増強完了
	調節池整備、放水路整備、支川合流点処理	国、埼玉県	宇和田さくら堰 完了	
	内水氾濫対策	埼玉県、東京都、区市町		
	流域の雨水貯留機能の向上	茨城県、埼玉県、東京都、区市町		
被害対象を減少させるための対策	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	埼玉県、東京都、区市町		
	まちづくりでの活用を視野にした土地の水災害リスク情報の充実	埼玉県		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	国、茨城県、埼玉県、東京都、区市町		
	避難体制等の強化	国、茨城県、埼玉県、東京都、区市町		
	関係者と連携した早期復旧・復興の体制強化	国、茨城県、埼玉県、東京都、区市町		
グリーンインフラの取組	・自然環境の保全・復元などの自然再生 ・治水対策における多自然川づくり	国、埼玉県、東京都、区市町		豊かな水と緑に親しめる 常時湛水池の設置 完了
	・健全なる水循環系の確保 ・自然環境が有する多様な機能活用の取組み	国、埼玉県、東京都、区市町		
	・魅力ある水辺空間・賑わい創出	国、埼玉県、区市町		

中川下流部(国管理区間) 堤防整備完了

気候変動を踏まえた 更なる対策を推進

■河川対策

全体事業費 約 6,606億円※

対策内容 堤防整備、河道掘削、調節池整備、放水路整備、支川合流点処理 等

■下水道対策

全体事業費 約 1,137億円

対策内容 流域の雨水貯留機能の向上 等

※スケジュールは今後の 事業進捗によって変更 となる場合がある。

※都管理河川については、補助・交付金に係る当面の事業費を計上している。

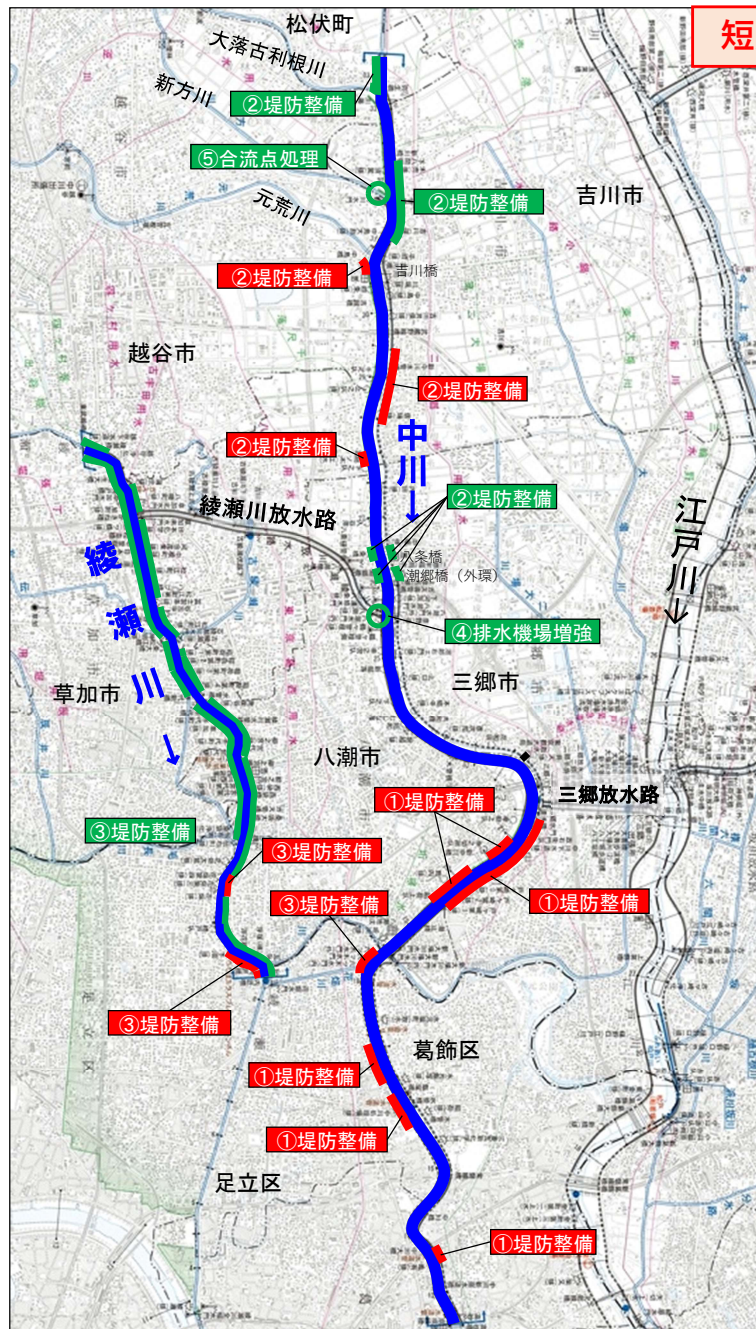
中川・綾瀬川流域治水プロジェクト

進捗と効果 (R5.3版)

～都市化の進む流域において総合的な治水対策を一層推進し、浸水被害を軽減～

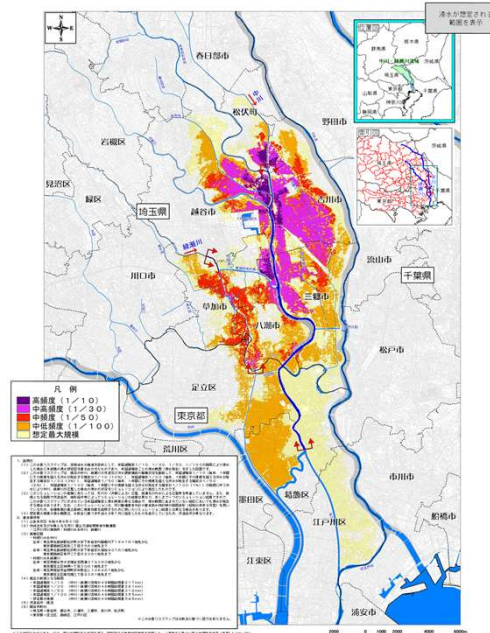
- 短期において、中川下流部の堤防整備を完了させることで、浸水被害の解消、軽減を図る。また、綾瀬川流域の浸水被害の解消に寄与する八潮排水機場の増強に着手する。

短期整備（5カ年加速化対策）効果：河川整備率 約70%→約75%（整備計画規模）



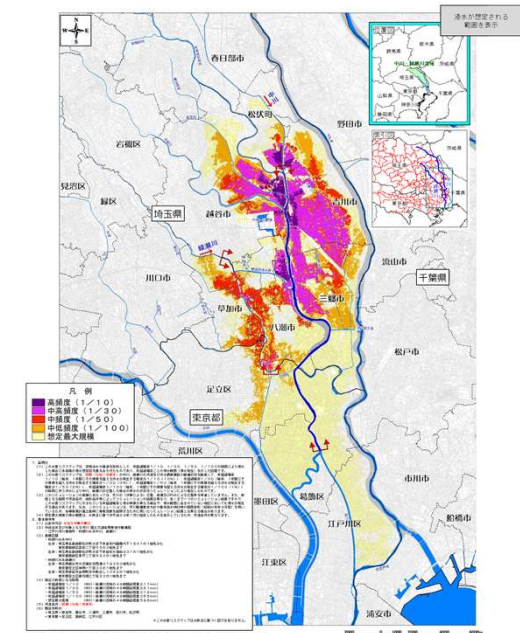
現状

R3.5末



短期

R8.3末



注：洪水浸水想定区域図作成マニュアル(第4版)に基づき、中川・綾瀬川(直轄管理区間)が氾濫した場合に、浸水深が0cmより大きい浸水範囲をシミュレーションにより予測したものである。
 注：想定最大規模については、平成29年7月に公表した洪水浸水想定区域図である。
 注：外水氾濫のみを想定したものであり、内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。
 注：国直轄事業の実施によるものであるが、今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

対策内容	対策箇所名	R3	短期	中長期
堤防整備	①中川 下流部		100%	
	②中川 上流部			100%
	③綾瀬川			100%
排水機場	④八潮排水機場増強		100%	
合流点処理	⑤新方川合流点			100%

中川・綾瀬川流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

R5.3更新

～都市化の進む流域において総合的な治水対策を一層推進し、浸水被害を軽減～

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率：75%

（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



0区市町

（令和4年度末時点）

流出抑制対策の実施



392施設

（令和3年度実施分）

山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 **100箇所**
（令和4年度実施分）

砂防関連施設の
整備数 **0施設**
（令和4年度完成分）
※施行中 0施設

立地適正化計画における
防災指針の作成



4区市町

（令和4年12月末時点）

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想定
区域 **575河川**

（令和4年9月末時点）

※一部、令和4年3月末時点

内水浸水想定
区域 **2団体**

（令和4年9月末時点）

高齢者等避難の
実効性の確保



避難確保
計画 洪水 **6,770施設**
土砂 **5施設**
（令和4年9月末時点）

個別避難計画 **28区市町**
（令和4年1月1日時点）

※下線は利根川水系流域全体での集計値

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

排水機場の増強（埼玉県、三郷市）



中川流域における浸水被害軽減のため、大場川の洪水を江戸川に排水するための大場川下流排水機場の増強を実施。令和3年度末に完了予定。

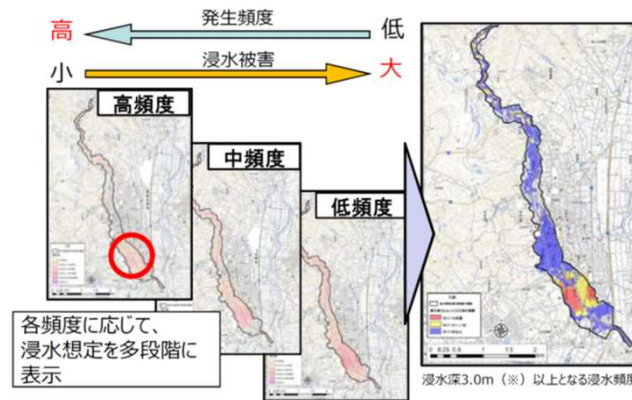
河川や水路の計画的な浚渫（白岡市、川口市）



緊急浚渫推進事業債を利用し、河川や幹線水路等の浚渫を実施している。これにより土砂が堆積し流下能力が低下した河川や水路の機能回復が図られるとともに、河道内貯留の効果も期待され、浸水被害の軽減に寄与。

被害対象を減少させるための対策

中高頻度の浸水想定区域図作成（埼玉県）



埼玉県では、水害リスクがより低い地域への居住・都市機能の誘導や、水害リスクが高いエリアにおけるまちづくり・住まい方の工夫を促すために、中高頻度の水害リスク情報図を作成し、市町村に提供する予定。

この取り組みにより、水害リスクを考慮したまちづくりや住まい方の工夫を実施することにより、被害対象が減少し、被害軽減が図られる。

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

水防災情報の発信強化（東京都）



東京都では、ピンポイントの浸水リスクをスマートフォン等から検索できる「浸水リスク検索サービス」に、令和3年12月より「中川及び綾瀬川圏域」を含む5区域を追加。

また、河川の状況を分かりやすくリアルタイムに伝える監視カメラについて、令和3年度は毛長川で設置し、映像を公開。

また、令和3年6月よりYouTubeを活用したライブ動画配信も開始。

これら水防災情報の発信・充実により、「洪水時の避難計画の立案」や「水害に強い生活様式の工夫」、「住民の迅速な避難行動」を支援する。